



キジの卵は何日くらいでかえるの

卵は、3～4週間でかえる

キジのメスは、4～7月ごろ、草むらや、低い木の下あたりの地面にくぼみを作り、草をすくって巣を作ります。たいてい、8～20個の卵を産みます。それから、ひながかえるまでの21～27日間、卵をだいて温めます。地面で卵をだくキジの習性には、メスの目立たない羽の色などが、ひなをかえすには安全でつごうがよいのです。巣作りから卵をだくまでは、メスの役割です。ひなは、羽毛につつまれて生まれてきます。そして数時間後には、もう、よちよち親といっしょに歩いて巣をはなれます。このように、ひながすぐ歩ける状態で生まれるのは、キジとガンやカモの仲間の特長です。

キジの生活

キジのオスは全長80～120センチメートルあり、そのうち40～50センチメートルがおの長さで、美しい羽の色をしています。メスの体長は50～60センチメートルで、羽の色は、目立たないかっ色です。

キジの仲間は、北海道以外の全国に見られ、草原や畑や林の近くにすみ、草の種子、木の実、芽、葉などいろいろな植物のほか、こん虫、クモ、ムカデ、トビムシ、カタツムリ、小形のヘビやトカゲなど多くの動物も食べます。じょうぶなつめで地面をひっかけ、地中の根、球根、こん虫などを、かき出して食べることもできます。

キジは国鳥

キジは日本の国鳥です。昔から、最高の料理の材料は、キジの肉と、魚のコイということで、キジ肉は、大切な食用肉にされてきました。（監修・今泉 忠明）

